

科目名・単位数	原価計算原理 2単位	科目分類	管理会計系	基本科目
配当年次	1年次・春学期・昼	担当教員	やすだ まさよし	
履修形態	選択必修		保田 順慶	
授業概要	<p>原価計算の主要な目的は、財務諸表作成目的と経営管理目的とに大別できる。前者の目的にとって最も適切な原価計算は、実際原価計算である。一方、後者の経営管理のための原価計算は、管理会計の領域に属する原価計算である。本講義では、まず原価計算の目的について詳説し、次いで原価概念など原価計算を学ぶ上での基礎的知識について順に解説する。これを踏まえて、原価計算の手続きである費目別計算→部門別計算→製品別計算について解説する。本講義の目的は、管理会計の基礎となる実際原価計算の理論と技術を的確に理解することにある。</p>			
到達目標	<p>原価計算を学ぶ上での基礎的知識の理解と実際原価計算の基本的枠組みを的確に理解し、実際原価計算を行いうる能力を培うこと。</p>			
授業方法	<p>講義形式で配付資料に基づいて進める。試験による効果測定は、期末試験とする。</p>			
事前・事後学習	<p>毎回事前に配付資料を通読して、不安がある項目については参考図書等で学習しておくこと（90分）。また、中間テストや期末テストに備えて、講義終了後には講義内で扱った例題を再度解き直しておくこと。（90分）</p>			
成績評価の方法	<p>講義への取り組みで20%、期末考査80%の割合で評価する。総合的に評価する。</p>			
フィードバックの方法	<p>期末試験の解説については、終了後に実施する。</p>			
履修上の注意	<p>原価計算を学ぶ強い意欲を持って授業に臨むこと。</p>			
授 業 計 画				
第1回	<p>1. 原価計算の目的 原価計算の目的は、大きく区分すると財務諸表作成目的と経営管理目的から成る。さらに後者は、業績評価目的と経営意思決定目的に区分できる。</p>			
第2回	<p>2. 原価計算の基礎知識 原価計算は、原価計算制度（実際原価計算と標準原価計算）と特殊原価調査に分類できる。前者は、原価計算基準に規定された原価の一般概念を示す。後者については、非原価項目について説明する。原価計算の基礎知識として、製造原価と総原価、原価計算の手続き、原価計算単位と原価計算期間について学習する。</p>			
第3回	<p>3. 費目別計算（1） 費目別計算の意義と材料費会計の主要論点である①材料購入の計算と処理（実際と予定）②材料消費額の計算（継続記録法と棚卸計算法）③月末材料の管理（棚卸減耗費）について学習する。</p>			
第4回	<p>4. 費目別計算（2） 労務費会計の主要論点である①労働力の購入額（給与の支払額）②労働力の消費額の計算と処理③未払給与に関する処理について学習する。また経費会計についても学習する。</p>			
第5回	<p>5. 経費会計・製造間接費会計 経費の処理とともに、製造間接費の意義、実際配賦の欠陥、正常配賦、基準操業度（理論的生産能力、実際的生産能力、平均操業度、期待実際操業度）、公式法変動予算について学習する。</p>			

第 6 回	6. 製造間接費会計・部門別計算 製造間接費予算と差異分析の手法および部門別計算の目的、原価部門の分類、部門別計算の手続、について学習する。
第 7 回	7. 部門別計算 部門別計算のうち第 2 次集計、第 3 次集計について学ぶ。第 2 次集計について、直接配賦法のほか各種配賦計算方法について学習する。
第 8 回	8. 個別原価計算 個別原価計算の意義、概要を説明する。さらに、個別原価計算における仕損については、①補修によって良品となる場合②新たに代品を製造する場合の計算と処理について学習する。
第 9 回	9. 個別原価計算・総合原価計算 個別原価計算の仕損の処理（間接経費処理等）について学ぶ。総合原価計算の意義を説明する。月末仕掛品原価の計算（平均法、先入先出法）についてその意味と計算方法を学習する。
第 10 回	10. 総合原価計算（2） 減損と仕損の意義、減損と仕損の処理方法、良品への負担関係について学習する。本講義では、度外視法の意義と計算方法について、例を用いて、評価額のある場合・ない場合について、完成品のみ負担、両者負担による場合の説明をする。
第 11 回	11. 総合原価計算（3） 前講義の度外視法と比較しながら、非度外視法の意義と計算方法について、評価額のある場合・ない場合について、完成品のみ負担、両者負担による場合を説明する。
第 12 回	12. 総合原価計算・工程別総合原価計算 異常仕損費の処理方法について学ぶ。工程別総合原価計算について、累加法、非累加法、加工費法それぞれの意義、目的、分類、計算方法について学習する。
第 13 回	13. 組別総合原価計算と等級別総合原価計算 組別総合原価計算・等級別総合原価計算の意義、特徴、分類、方法、勘定連絡、計算例について学習する。
第 14 回	14. 連産品原価の計算・まとめ 連産品の意義、計算方法、連結原価の配賦計算とその目的について学習する。また、副産物と作業くずの計算方法についても学習する。本講義は最終講義なので随時、質疑応答をする。
第 15 回	15. 授業内テスト 今までの学習内容の定着を確認する確認テストを実施する。また、試験後解説を実施する。
テキスト	講義時に資料を配付する。
参考図書	山田庫平編著『原価計算の基礎知識[改訂版]』（東京経済情報出版、2004）